

SAPPORO
MINAMIKU

ARTIST FILES

2022

南区アーティストファイル



発行元：「南区＝アートのまち」プロジェクト実行委員会

事務局：札幌市南区、株式会社ノヴェロ（受託事業者）、株式会社メディア・マジック（受託事業者）

協力：札幌市立大学、東海大学札幌キャンパス、札幌芸術の森、PMF組織委員会

お問い合わせ 「南区＝アートのまち」プロジェクト実行委員会事務局（南区地域振興課）
TEL.011-582-4723
E-mail : minami.machitan@city.sapporo.jp
営業時間：平日8:45～17:15

※掲載情報は2021年12月取材時点のものです。

南区アーティストファイルとは？

豊かな自然に恵まれ、数多くの芸術・文化関連施設がある南区には、多様なジャンルの作家・アーティストが暮らし、また拠点を設けて創作等を行っています。

『南区アーティストファイル』は、こうした方々の活動情報を集め、興味をもっていただくためのきっかけづくりや、多くの人の目に触れることで、新たな活動の機会につなげていただくことを目的としたものです。

南区では現在「アート」を地域の特徴として捉え、アートを通じた心豊かで魅力あるまちづくりを目指す「南区＝アートのまち」プロジェクトを推進中です。この取り組みには南区ゆかりのアーティストの参加・協力が不可欠ですが、今まで個々の活動状況を網羅的に把握する機会がなかったため、区民の方々の目に触れることはあまりありませんでした。

そこで、有識者で構成するプロジェクト実行委員会が推薦するアーティストの情報をまとめ、広くその活動内容を発信することで、区民に関心をもってもらうと同時に、作家・アーティスト同士の交流にもつながり、活動の幅が広がることを期待しています。さらに、区民参加型のイベントや、地域での作家・アーティストとの触れ合いを通じて、アートが身近に感じられ、心豊かに暮らせる魅力あるまちづくりを進めていきます。

PICK UP
ARTIST

北海道ならではの表現を追求し、
この地の「伝統工芸」を目指したい。

私の作品であり、工房を代表するプロダクトに「つららシリーズ」というものがあります。つららは屋根などにできる氷柱のこと。雪のなかにつららを円形に並べて立て、そこにガラスを吹き込んで制作します。摂氏1000℃を超えるガラスと、氷点下のつららが一瞬、触れ合って、氷が溶けると同時にガラスの造形が生まれる。

いわば、つららの形をガラスに写しとっているわけですが、そこにはつららができあがるまでの時間の経過のようなものも映り込んでいるという感じがあって、おもしろみを感じています。デコボコした氷の形が、気温や湿度に影響されながらその時々姿で残る。北海道ならではのガラスではないかと自負しています。

小さい頃から、ものをつくるのが好きで、小学校の時には、伝統工芸と呼ばれているものに漠然とした興味を抱きました。きつかけは、授業で輪島塗りについて知ったこと。一つの器をつくるために生地師、塗師など修行を積んだ職人が関わり、15以上の工程が必要になる。すごいなと思う反面、工業製品が手軽に手に入る時代、なくなっていくかもしれないと感じていました。

でも、なくしてはいけない。そう感じて、自分は将来工芸的な分野に関わりたいと思うようになりました。ところが、北海道には伝統工芸と呼べるものがほ

南区石山に工房を移したのは2005年のこと。いずれは故郷の北海道に戻って活動したいという思いからですが、制作を始めてみると、ガラスというのは北海道との親和性が実に高いことに気づきました。トランスペアレント（透明）な表情が、雪・氷の質感となじみますね。また、冬場に感じるピンと張りつめたような空気の透明感が、ガラスという素材がもつ緊張感とてもよく似ています。この環境のなかで、北海道ならではの表現を追求し、ガラスという朽ちない素材に吹き込むことで、北国の現在の生活のようなものを後世に伝えていく。そんなロマンも抱きながら、創作に取り組んでいます。

●●●
南区で表現を行う方々とも
一緒に活動しつつ、リアルな
ものづくりを見せていきたい。

南区に工房を構えたのは、たまたま良い場所が見つかったからです。このエリアにはさまざまな表現がされている方が多いことを知りました。木工作家の山口大樹さんは、私の後に近所に工房を構えた木工作家さんで、2021年には2人展を行いました。地域で活動されている方々と機会をみつけて活動ができればと思っていますし、同時に、デジタル時代の若い世代に、私たちが格闘してきたリアルなものづくりの魅力を見せていくことも、20年以上ガラスに取り組んできた自分の役割かなと思っています。（談）



とんだない。そんな時、高校卒業後の道を考えながら訪ねた小樽で出会ったのがガラスでした。話を聞いてみると、北海道はガラス工房の数が全国でも有数だということがわかったんです。

一方で、日本中を見渡しても、ガラスの産地といったところはないんですね。ガラスが本格的に日本に入ってきたのは100年ちょっと前。江戸切子などよく知られるガラス工芸も、職人さんのルーツはせいぜい4代、5代前。その意味では新しい技術です。

だからこそ、近代の歴史が新しい北海道でガラス工芸に取り組み、この先300年、400年と続いていけば、北海道の「伝統工芸」になっていく可能性もある。大きな話ですが、そうしたことも考えて、ガラスの技法を教える東京の学校で学び、工房での経験を経て山梨県に工房を設立しました。ガラスに触れてみて痛感したのは、難しい素材だということ。熱いので、木や金属、粘土のように制作の過程で直接手で触れることができません。変化する形を操るには瞬発力もいるし、長い鍛錬が必要になります。でも、だからこそ一生追求できる部分がある。そこにも魅力を感じました。



上杉 高雅 硝子作家

Takamasa Uesugi

1979年 札幌市生まれ
2000年 東京国際ガラス学院基礎科卒業
2001年 山梨県にてStudioπ（スタジオパイ）設立
2005年 札幌市南区石山に工房を移転
2012年 東京六本木ヒルズ 森美術館内アート&デザインストア A/D Galleryにて取扱い
2013年 5月 札幌大通ビッセにて個展
2013年 12月 リキッドガラスキャンドルシリーズの5種類が札幌スタイルに認証される
2015年 ウィンザーホテル&スパ(洞爺湖)作品出品展示
2016年 「スナノヲモサ」(丸井今井・札幌)
「SORAZONES」(さいとうギャラリー・札幌)
「海の森」(黒い森美術館・北広島)
2017年 「夏の夜空」(丸井今井・札幌)
「のの -of of-」(三越・札幌)

主に宙吹きガラスで一点ものの作品を制作、インスピレーションを大切にしながら身近で気楽な、それでいて「かけがえのないモノづくり」をコンセプトに活動している。

2018年 「こだわりの手仕事～陶器と硝子～作家二人展」(丸井今井・札幌)
「Classic」(三越・札幌)
「箸まくら。」(三越・札幌)
「エゾ鹿」(新宿伊勢丹・東京)
2019年 「NO DARK.」(さいとうギャラリー・札幌)
2020年 「小さな秋のガラス展」(三越・札幌)
2021年 「木とガラス -Silhouette- 二人展」(丸井今井・札幌)
「20 years exhibition」(三越・札幌)
2022年 「石山で芽吹く木と硝子」(丸井今井・札幌) 5月開催予定

studio π glass factory
札幌市南区石山1条8丁目1-41 TEL. 011-522-6225
<https://www.studio-p.jp>

PICK UP ARTIST

北海道の自然をきちんと解釈し、 さまざまな表現で伝えていきたい。

高校卒業後は東京で10年ほど活動し、29歳の時、札幌に戻ってきました。東京にも拠点がありますが、基本は南区のスタジオにいて、映像制作系の仕事に取り組んでいます。札幌に拠点を構えた当初は、アーティストのミュージックビデオを年間14、15本は制作していました。それまでの活動のつながりがあったことと、北海道ならではの圧倒的なロケーションが必要とされたためです。

現在は、北海道の風土・自然・環境にこだわりつつ、シティブロモーション系のコンテンツ制作・地域の企業などのCM映像、ネイチャー・サイエンスの分野の研究・発表映像の制作なども行っています。

高校時代、当時まだ萌芽期だったMacによる音楽づくりをしていました。その延長線上で実験的なWebサイトを制作するようになり、東京のアートスクールに進みました。そこで、Webや映像の創作をしつつ、VJにも触手を伸ばし、DJとともにイベントを開いたりしていたところ人の目にとまって、アーティストのライブステージでの映像制作を手がけるようになっていったんです。

上京して2年ほどでそんな機会に恵まれたわけですが、VJは人のための表現。そうではなくて、自分が本来やりたかった表現を突き詰めようと考えてるようになり、やがて実験映画にたどり着きます。

そこで制作した作品が、アメリカで歴史のある映画

ど自然の情景を叙情的に描く旧ソ連の映画監督、アンドレイ・タルコフスキーが好きなのですが、千歳に降り立つ飛行機からウトナイ湖と湿原の景色を目にした時、彼が描写したような風景が身近にあることに感動。北海道の自然をきちんと解釈し、伝えるような仕事がしたいと強烈に思いました。

さまざまな作品作りを行ってきた経験から、クリエイティブな活動は、経済活動ときちんとリンクさせなければ継続できないことを痛感しています。そこで現在は映像制作と並行して、撮影した実験的な流水作品をテキスタイルなどの商品に仕立るといった考え方で様々なコンテンツに向き合っています。作家活動にも取り組んでいきますが、自分の活動と社会とをどう紐づけるかを大切にしつつ、ライフスタイルの提案といったことを総合的に手がけていきたいと思っています。

●●● 南区の自然と文化的な土壌は、 表現者にとって最適な環境です。

札幌で活動するにあたって南区、なかでもスタジオがある常盤のこの場所には、とてもこだわりました。水がきれいで森に囲まれているなど北海道らしいロケーションということに加えて、札幌芸術の森があつて札幌市立大学があるという文化的な土壌が、表現者としてのエコシステムというか、刺激や影響を得やすい環境なんですね。仕事でやりとりをする人たちも、ここに集まり、森の風景を眺めながら話をするなかで、北海道らしい環境や土壌、経済を交えた観点から、地域の資源などを紐づけてパッケージし、表現して伝えていく。地域のクリエイターとも関わり、そんな動きができればうれしいですね(談)



祭「Ann Arbor Film Festival」で選考上映され、作家として作品をつくつていこうと方向転換をしました。

その作品は短編でしたが、今度は16mmフィルムでの長編映画の制作に取り組みました。けれども、脚本に1年半、撮影に1年ほどかけて制作を進めたものの、納得できるものに辿り着けず、断念してしまっただんです。

表現という点で、映画は動きが鈍く、求めているものに到達しづらいと感じて、今度は写真での表現を追い求め、作品をつくり始めました。そして、明確な評価を得たいと考えて表現を磨き、現代アートの写真コンペである「キヤノン写真新世紀」で入賞を果たすことができました。2011年のことです。

Webや映像、映画、写真。いずれも一定レベルに達するまで取り組みました。現在の仕事は、それらの集大成ともいえるんです。

北海道に戻ってきて最初に制作したのはウトナイ湖とその周辺のドキュメンタリーでした。私は、水な

北川 陽稔

Akiyoshi Kitagawa

映像作家／haptics代表

※VJ(ビジュアルジョッキー)=音楽に合わせて映像等を演出すること

札幌市生まれ。東京にて映像作家として活動し、短編映画の制作等を行い、作品がアンディ・ウォーホルを輩出した Ann Arbor Film Festival にて入選する。近年は主に北海道を制作のフィールドに活動。土地の歴史的背景やランドスケープに着目し、写真やビデオによる作品を制作する。キヤノン写真新世紀、JRタワーアートボックス2014他にて入賞・入選。

「Water Garden "UTONAI"」(2010・苫小牧イコロの森)
「Unknown Northern City」(2010・ギャラリー品品法邑)
「Two Sanctuaries」(2010・ギャラリー品品法邑)
「annoski #01 tuie-pira」(2011・Gallery Cosmos)
「北川陽稔展 annoski」(2012・Gallery Poetic Scape)
JRタワー アートボックス「meltgram」展
(2014・JRタワーアートボックス)

<主なグループ展>
「写真新世紀東京展2011」(2011・東京都写真美術館)
「写真新世紀 仙台展 2012」(2012・せんだいメディアテーク)
「写真・重力と虹」(2013・CAI02)
札幌国際芸術祭連携企画 そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト(2014・旧北炭清水沢火力発電所)
札幌国際芸術祭連携企画 ハコレン「annoski Installation Version」(2014・Plantation)
札幌国際芸術祭特別展示「センシングストリームズ」映像上映(2014・札幌駅地下歩行空間)
特別企画展「もうひとつの眺め(サイト) 北海道・8人の写真と映像」(2015・北海道立近代美術館)

北海道登別洞爺広域観光圏協議会 プロモーション映像
https://vimeo.com/530634638
FOLKS ミュージックビデオ https://www.youtube.com/watch?v=nLL_BEjpwQpiana ミュージックビデオ https://www.youtube.com/watch?v=bnC4UKaLqH0

株式会社haptics
札幌市南区常盤4条1丁目1-14 <http://haptics.co.jp/>
AKIYOSHI KITAGAWA Archives <http://www.akiyoshikitagawa.com/>

PICK UP ARTIST

気軽に、身近に音楽に親しんでほしい。 私の演奏活動の一つのテーマです。

小さい頃から夏になると、札幌芸術の森へと出かけ
ていました。お目当てはPMF(国際教育音楽祭 パシ
フィック・ミュージック・フェスティバル札幌)。野外ス
テージのピクニックコンサートを聴くためです。実家
からそう遠くない場所ので、一流の音楽に触れたこ
とは、今にして思えばとても大きな経験だったと感じ
ますが、そのPMFに後年、アカデミー生として二度
も参加することになるとは、もちろん当時は考えても
いませんでした。

初めて参加した2006年はワレリー・ゲルギエ
フ、次の2010年にはファビオ・ルイージと、ロシ
ア、イタリアを代表する世界的指揮者のもとで演奏で
きたほか、ウィーン・フィルハーモニーのコンサートマ
スター(当時)、ウエルナー・ヒンクさんと室内楽を
演奏するなど貴重な体験をすることができました。
南区に住んでいなかったら、こうした機会も得られな
かったかもしれませんね。

両親とも日頃からクラシックに親しむ環境のなか、
ピアノを弾く母の勧めで4歳からヴァイオリンを習
い始めました。物心がついた時にはヴァイオリンに
触っていたという感覚です。もともと、練習はあまり
好きではありませんでした(笑)。



大学卒業後から音楽教室の講師のほか、個人レッ
スンも行うなど、忙しい日々を送っていました。そん
ななかで発生したコロナ禍。現在(2021年度末)
は、演奏活動も通常に戻りつつありますが、一時期は
文字通りゼロに。そこで、新しい試みとして演奏仲間
と動画配信にもチャレンジしました。コロナの余波
は予想以上に大きいものでしたが、お陰で未知の試
みに踏み出すことができるなど、プラスにもなったと
思っています。

私は現在、いつでもどこでも音楽を”をコンセプ
トに活動する、「奏楽(そら)」というアンサンブルグ
ループにも参加しており、イベント会場はもとより学
校、幼稚園など、さまざまな場所で演奏を行っています。
札幌だけでなく、道内各地に出向いて室内楽の公
演などを行っていることが「奏楽」の特徴。クラシック
などの生演奏を普段はあまり聴く機会のない地域に
出向き、もっと身近に、音楽を感じていただける活動
がしたいという自分自身の思いもあり、より力を入れ
て取り組んでいきたいと考えています。



● ● ● 徒歩圏にある120席のホール。 こうした場所が増えてほしい。

自宅の近くに、北海道のお菓子メーカーが運営する真
駒内六花亭ホールがあります。120席ほどの、クオリ
ティの高いホールで、定期的に演奏会が行われており、
私も時々、聴きに行っています。近所に素晴らしいホー
ルがあることが、私の南区自慢！こうしたスペースが増
え、もっと気軽に音楽に親しめるようになればいいです
ね。

演奏する側としては、たとえばカフェとか商業施設の
一角等々、積極的に音楽を伝える場をつくりたいと思っ
ているところです。(談)

小林 佳奈 ヴァイオリン奏者

Kana Kobayashi

北海道教育大学札幌校芸術文化課程音楽コース卒業

2002年～2003年

ベルゲン大学グリーグアカデミーに留学

2006年、2010年

PMF(国際教育音楽祭 パシフィック・ミュージック・フェス

ティバル札幌)にオーケストラアカデミー生として参加

2010年の東京公演ではコンサートマスターを務める

2010年～ 北海道文化財団HAFアーティストとして活動

2019年 フィリピン・マニラにてフィリピン・フィルハーモニー管弦楽

団定期演奏会にソリストとして出演

2021年 NHK札幌放送局主催『北の文芸館』公開収録に出演

ヴァイオリンを故・井上需、内田輝、V.ディ・パスクアーレ、R.オドゥリオ
ゾーラ、鎌田泉の各氏に、室内楽を内田輝、文屋治実、鎌田泉、大平由美
子、大山平一郎の各氏に師事。

現在、ソロや室内楽、オーケストラなどで活動する一方、後進の指導も
行っている。

弦楽四重奏団 クアルテット・ポッポ、アンサンブル グループ奏楽(そら)
各メンバー

E-mail kanana0301violin@gmail.com



ただ、レッスンを強要するのではなく、自然に学ば
せてもらえたお陰で、ヴァイオリン自体を嫌いになっ
たことは、今まで一度もないんです。

だからこそ、高校で進路を決める時にも迷わず、
ずっと続けてきたヴァイオリン(音楽)を活かせる道
に進みたいと考え、北海道教育大学の音楽コースに進
みました。大学では、学校が提携するベルゲン大学グ
リーグアカデミー(フルウエー)のゲストスチューデ
ントとして1年間、留学を経験。北欧の文化に触れる
と同時に、自然環境など似通ったところのある札幌で
の自分の活動について、ある意味、客観的に考える契
機にもなった気がします。

大学在学中から、先輩の誘いなどを受けて少しづ
つ演奏活動を始め、卒業後は基本的にフリーランスの
演奏家として活動を続けています。PMFから演奏依
頼をいただいたり、オーケストラへの客演の他、室内
楽やソロの公演で幅広く演奏させていただいており
ます。

PICK UP ARTIST

太陽と木と、自分とのつながり。
そうしたものが現れたらと思っています。

高さ4m、直径は120cmほどでしょうか。この木の幹のなかに、身体ごと潜り込んで彫り進めています。貫通させた後は立てて、太陽の光を取り込むようにしたいと思っています。太陽と、木と、そして自分と。その繋がりのようなものを探ってみたいというのが、現在取り組んでいるこの作品のテーマです。

大阪芸術大学を卒業した後、和歌山県の森林組合に入組。木のこと、山のことを学びたいと思いました。毎日、チェーンソーとお弁当を持って2時間ほどかけて山中に入り、鬱蒼とした木立のなか杉とか檜の間伐をします。木を切り倒すと、そこに空からズバツと光が差し込んでくる。1本の木の命と、もつと大きな自然という命の間で感じたことが今の作品制作に大きな影響を与えていると感じます。

木への憧れを抱いたのは、小学2年生の時に手塚治虫の『火の鳥鳳凰編』のアニメーションを観たことがきっかけかもしれません。我王が鳳凰を彫っているシーンに興味を抱き、自分もいつか彫刻をやってみたいと思った記憶があります。

当時、私は南区真駒内の柏丘で暮らしていました。自宅が小高い崖の上であり、坂道を駆け降りるように学校に行くのですが、周囲には鬱蒼とした木々の緑があつて。そんな原風景も、木や自然について考える

み学園分校(現・北見支援学校)に職を得ました。本格的に、自分の作品づくりに取り組めるようになったのは、この頃からです。

中札内に転動になったのは2011年。十勝は北海道のなかでも現代アートが盛んだと感じ、何人か知り合いもいたので、創作の場としてこの地に根を下ろすことにしました。

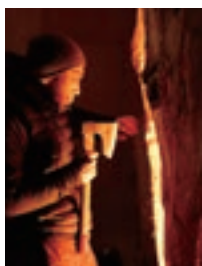
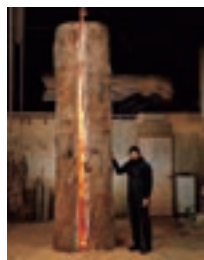
冒頭でお話した作品は単体ではなく、ほかにも木をたくさん立てて、そのなかを太陽の光が貫通するというイメージです。できれば夏至の頃に、オーブンアトリエのようなスタイルで展示してみたいと思っています。

● ● ● オリンピックの真駒内の風景にも 創作の刺激を受けています。

私が創作にあたって刺激を受けたこととして、子どもの頃に暮らしていた真駒内の空気感のようなものがあります。札幌オリンピックのために建設されたユニークな形の集合住宅、真駒内公園にあったオレンジ色の椅子など、当時のポップアートと周囲の自然が絶妙に融合しているというか、子どもだった自分にとって、ちよつとワクワクするような雰囲気もありました。そこで得た感覚のようなものが、作品にも影響を与えている気がします。南区には石山緑地など、その場所の力のようなものを感じるロケーションがあります。いつか、そうしたところで創作ができればいいなと思っています。(談)



【札幌美術展 アフターダーク「太陽のふね」展示制作風景 2021年】



【太陽のいす 2018年】

藤原 千也 彫刻家

Kazuya Fujiwara

- 1978年 札幌市南区真駒内生まれ
- 2000年 西宮美術展 奨励賞受賞
- 2002年 大阪芸術大学美術学部立体造形学科卒業
和歌山県高野町森林組合に入社
- 2006年 北見支援学校(旧紋別養護学校きたみ学園分校)にて勤務
北見市にて制作を再開
- 2008年 第83回全道展入選
- 2009年 生徒との展覧会「ひらかれている」茶廊法邑(北海道・札幌市)
- 2010年 生徒の個展を企画 蛇子陽太「くろながいねこからの招待状」NHKギャラリー(北海道・北見市)
- 2011年 個展「ひらかれている」FLOWMOTION(北海道・帯広市)
北海道中札内高等養護学校に転勤、中札内村で制作を行う
グループ展「茶廊法邑 開廊7周年記念展覧会」茶廊法邑(北海道・札幌市)、個展「ひとりのひとにひとつずつの」北網圏北見文化センター美術館(北海道・北見市)
- 2013年 グループ展「緑と風の器展」FLOW MOTION(北海道・帯広市)、「in the LIGHT / in the SHADOW」北海道立帯広美術館(北海道・帯広市)

- 2014年 グループ展「防風林アートプロジェクト」帯広市の郊外・防風林の中でインスレーション(北海道・帯広市)「モケラモケラ企画若手作家シリーズ1 からすと山羊と鉛 見上げれば空展」(Art Space / café MOKERA MOKERA/旭川市)
- 2015年 「The open plane」十勝の明日(帯広市)
- 2017年 「六花ファイル」(北海道札幌市/六花亭 六花文庫)
- 2017年 「ひかりの抜け道」(大丸藤井セントラル/北海道札幌市)
- 2018年 北海道教育大学大学院 教育学研究科 教科教育専攻 美術教育専修空間造形研究室修了「ピカリ展-12人の切り口-」(丸彦渡辺建設 まるひこアートスペース/札幌)「藤原 千也 オープンアトリエ 中札内村2018」(藤原千也のアトリエ/北海道中札内村)
- 2019年 「第38回帯広市民芸術祭」招待作家展【藤原千也展-ふたたび生成のうちに-】(帯広市民ギャラリー/北海道帯広市)「はこだてトリエンナーレ」【藤原千也展-光景-】(北海道木古内町 郷土資料館/北海道上磯郡木古内町)。「JRタワーアートボックス」(JR札幌駅/北海道札幌市)「松本道子/ダンスと藤原千也/彫刻コラボレーション」(藤原千也のアトリエ/北海道中札内村)
- 2020年 第23回岡本太郎現代芸術特別賞受賞「第23回岡本太郎現代芸術賞展」(川崎市岡本太郎美術館/神奈川県)
- 2021年 「彫刻家 藤原千也 特別企画展」(中札内文化創造センター/北海道中札内村)
- 2021年 「札幌美術展 アフターダーク」(札幌芸術の森美術館/ 北海道札幌市)

藤原千也アトリエ
北海道河西郡中札内村東1条南4丁目1
<https://kazuyafujiwara.com>
kzya.fujiwara@gmail.com



きっかけになっていますね。
中学校に上がり、粘土で手を作る授業のとき、自分には創作の才能があるんじゃないかと感じたことも覚えています。勝手に思い込んでいただけですが、その勢いで大阪芸大へ進んだというのが、本当のところですよ(笑)。

現在は、道東の中札内高等養護学校で教員をしながら作品づくりを行っています。森林組合時代に、ねむの木学園の作品の展覧会を観る機会がありました。子どもたちの作品は、どれもおもしろく、ここでも創作の刺激を受けました。そして、こうした子どもたちと触れ合えるなら教員もいいなと思ったんですね。

私自身は売れるものはつくれないし、つくりたいものと向き合いたかったので、食べていくという現実的な問題も考えて、1年間真駒内の実家で教員採用試験の勉強に取り組み、2006年に紋別養護学校きた



PICK UP ARTIST

この子のために、何かつくりたい。
それが、ものづくりの原点ですね。

私は、アイスクリームが好きです。でも、丸いスプーンでハーゲンダッツのカップを食べると、端にアイスクリームが残るでしょ。それがどうにもくやしくて。最後の一滴まで掬えるようなスプーンをつくらうという発想（執念？）から生まれたのが「すくう」と名付けた白樺のアイススプーンです。題して、最後まで食べられるシリーズ（笑）。

現在制作しているのは木の器が中心ですが、自分が暮らしのなかで必要とするものを、自分なりにデザインしてつくる、ということを中心にしています。使えるもの、実感が湧くもの、といえはいいでしょうか。



札幌市立高等専門学校、現在の札幌市立大学で木工技術の基礎を学びましたが、プロダクトデザインの授業で「知らない誰か」のことを想定してつくる、というのが苦手でした。いわゆる汎用品はそれが当たり前です。でも、なんか嘘っぽいと感じていました。本格的な加工技術を身につけるため、卒業後は鯖江市（福井県）にある木製雑貨の工場で7年間ほど修行

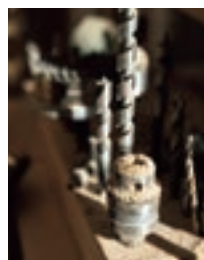
「カイ」と読み替え『キトカイ』という名前でスタートしました。

ものづくりの現場で実感が得られなかったのはなぜか。それは、責任感がなかったからではないか。誰かのために思い、その器を手にとつて、おいしく食べるというところまで考えられないと、すぐれたものは創作できない。そう考えるようになったのは、自分に子どもが生まれたことも大きいですね。この子のために、何かつくりたい。ものづくりっていうのは、それでいいんだと。そうなると、ものをつくるのが辛いと感じることはなくなつたし、次はこれをつくってみようか、というワクワクする思いも強くなりましたね。

これがあつたら喜ぶだろうかという自分の視点で創作することもあります。想定した相手ではなく、「こんなの、あると助かるな」など、身近な人たちの声をヒントにもものづくりをしていきたいと思っています。

南区から、北海道らしい 伝統を作りたい。

2021年は、札幌と江別で4回、作品展示の機会をいただきました。そのうちの1回は、すぐ近所で活動するガラス作家・上杉高雅さんの（studio）へにお誘いいただいた二人展でした。南区にも、ものづくりに取り組む多分野の作家アーティストが活動を行っています。こうした「人」が集まって、北海道らしい「伝統」をつくっていく、という方向性も今後はあるのではないかと感じています。このアーティストファイルを通して、じゃあ、今度コラボしてみよう、といった動きが出てくると面白いなと思いますね。（談）



山口 大樹

Taiju Yamaguchi

デザイナー・木工作家

- 1986年 熊本県生まれ
- 1990年 両親とともに札幌市で暮らし始める。札幌市立高等専門学校（現札幌市立大学）で工業デザイン、北海道教育大学で情報デザインを学ぶ
- 2011年 福井県鯖江市に移住。漆器生産から転業した木工雑貨製造会社の製造工程に職人として7年間携わる。その傍ら食べ物に合わせた形状の木のさじを作り続ける「日々のさじ」、放置果樹の剪定枝を使ったスプーンづくりのワークショップなどを開催する
- 2018年 北海道へ帰郷
- 2020年 道産木製品のブランド「キトカイ」を開始する

キトカイは、札幌を中心に活動するデザイナー、山口大樹による木製品のブランド。シラカバやエゾマツなど、地場の木材を使い、挽き物の器からインテリアまで、生活を永くともにできるシンプルで実用的な美しさをめざしている。

<出展歴>

- 2021年 5月 「Studio π / キトカイ 二人展 -silhouette-」 丸井今井札幌店・北海道クリエイターズ
- 2021年 8月 「北の暮らしのクラフト展」東急百貨店 さっぽろ店
- 2021年 9月 「暮らしにまつわる、手しごと展」蔦屋書店 江別店
- 2021年11月 「秋を楽しむ時間 -食の棟マルシェ-」蔦屋書店 江別店

工 房 札幌市南区石山588-16
http://d-shot.net/kitokai/



しました。

そこは、デザインのすぐれた製品も多く、技術力も一流だったのですが、実際に仕事としてのものづくりをしている現場に入っても、自分には何か違うという感じがしていました。

製品をつくるというのはそういうものだということは理解できるし、悪いことでもなんでもないのですが、どこか無理矢理つくっているという感じが拭えなくて。つくるということがちよつと嫌になった時期もありました。

けれども2018年に、小学校の終わり頃から暮らす、南区の自然のなかに戻ってくると、知らないうちに手を動かして、なんだかんだつくろうとしている自分がいたんですね。改めて、ものづくりが好きだということに気づき、それなら、学校で学んだプロダクトデザイン、鯖江の工場で身につけたこと、そして心から感じたことを作品にしてみよう。自分なりのものづくりを追求しようと考えようになりました。

空き家になっていた石山の民家に工房を構えたのは2020年。コロナ禍ということもあり迷いましたが、器で漕ぎ出すという思いを木の器「キ」漕ぎ道具

PICK UP ARTIST

アートを通して、アイヌがもつ感覚、 価値観のようなものを伝えたい。

南区石山から眺める硬石山の風景に惚れてしまい、2006年に引っ越してきました。切り立った崖、その山塊に沿って下る豊平川の流れ。アイヌは川のそばに暮らしているというイメージが自分のなかに強くあるんです。

私が生まれたのは、道東釧路の紫雲台という海に近い場所。最後のアイヌコタンと呼ばれる春採コタンがあったところで、アイヌ専用の銭湯や保育園などもありました。古くからアイヌの人たちが生活していたその場所で、父である結城庄司は、昭和の時代にアイヌ解放の運動の急先鋒を担っていた人物でした。今でこそ、そんな父を尊敬していますが、アイヌ文化の輪郭のようなものは、父母の離婚後、私を育ててくれた祖母が伝えてくれたことが大きいですね。

その祖母が亡くなると、私は神奈川県の叔母のもとで暮らすことになりました。7歳の頃です。そして、19歳から10年間にわたって、不動産会社で働きしました。ところが、いわゆるバブルが弾けて倒産。社会から放り出されて心の拠り所をなくすなか、たまたまネイティブアメリカンの本を読んだ時に、アイヌとしてのおばあちゃんの姿、ムツクリ（口琴）やウボボ（座り歌）を聞いた時に感じていたことがフラッシュバックしたんですね。

じるインスピレーションを通して表現したいというのが願いです。アイヌとアイヌ以外の人、世代と世代の間に入り込んで、お互いを紹介したり、響き合うきっかけをつくる、といったことをしていきたいですね。

アイヌは自然とともに生きる民などと、よく言われますが、この北海道の豊かな自然に触れば、誰しも何かを感じるはずです。

車で30分も走れば海に出て、30分も走れば深い山がある。そして、大都市の真ん中に豊かな川が流れている札幌も、十分にそんな気持ちにさせてくれます。札幌のなかでも、森の豊かさ、景観の素晴らしさという点で、南区は最も「才能」がある場所だと私は感じています。アイヌアートプロジェクトではライブなどを行っているほか、小学校でアイヌの伝統文化などを教える活動もしています。南区のこの地を発信源に、作品とともに子どもたちにアイヌの精神性なども、伝えていきたいですね。

南区から新たな神話を 紡いでいきたいですね。

私は、南区から新たに神話的な話を紡いでいくものいいのではないかと考えています。最近では熊が出没し、人々が警戒するような状況になっていますが、木彫りや版画を通してその熊の代弁者になる人がいてほしいかなと思いますし、鹿の視点で人間を見て、ちよつと揶揄するような表現があってもいい。そんな活動を通して、多くの人に南区の魅力を知ってもらえれば嬉しいですね（談）



結城 幸司 版画・木彫作家

Koji Yuuki

釧路市生まれ
2006年から南区・石山に在住し、版画や木彫を中心に現代アートの制作活動を行う。

東京で約10年間のサラリーマン生活を経て、ネイティブアメリカンの本に出会ったことをきっかけに、アイヌ活動家だった父・結城庄司の本を読むようになり、創作活動を始める。
「アイヌアートプロジェクト」の代表を務め、音楽活動も行っている。



作品展示 八剣山ギャラリー
(札幌市南区砥山194-1 八剣山ワイナリー内)
TEL 011-596-3981
<https://www.hakkenzan-gallery.com/yuki/>

東京にあるアイヌのコミュニティでアイヌ文化について学びながら、いっしょに故郷の北海道に目を向けるなか、伝統的な船である板楨船（イタオマチブ）をつくるという話をいただき、家族で北海道へ戻ることに。そして、その時に集まったアイヌの仲間と2000年に「アイヌアートプロジェクト」を立ち上げました。

「アイヌアートプロジェクト」は、アイヌ伝統文化と現代アートの融合を目的としたグループです。プロジェクトといっても、堅苦しいものではなく、私が取り組んでいる木彫りや版画でも、絵でも刺繍でもいいし、踊りや伝統楽器の演奏でもいい。ハードロックをやっているメンバーもいます。何からの表現を主体としてアイヌ文化を知ってもらいたい、感じてほしいと考えているんです。



たとえばアイヌは雪が積もると「山が着替える」と言います。少し前までは、黄金色や赤をまとうていたものが、今は銀色の服を着ている。自然と向き合う時のそんな感覚、世界観のようなものを、私自身が感



PICK UP ARTIST

目の高さに空が見える山の環境、
特に冬の景色から発想を得ています。

私が学生の頃は、漫画は墨汁で描くのが一般的でした。大好きな漫画を、私も墨汁で描いていましたが、墨汁（墨）の特性の一つである「滲み」を使うことは、漫画ではあまりないですね。そこで、専門学校の卒業制作では、あえて墨を使った作品に挑みました。

その時に制作した「幻」（1981年）という作品は、アニメーション。少しずつずらした絵を何十枚も描いてコマ送りしていく手法です。ストーリーを描きたいといった発想はなくて、墨の濃淡や滲みの表情を表現してみたい。そんな感じだったと思います。

白い余白、墨の黒と薄く滲んだ黒。それらが緩やかに動いていく表現がとてもおもしろく感じ、色のあるものよりむしろ表現の幅が広いことに気づいたんですね。

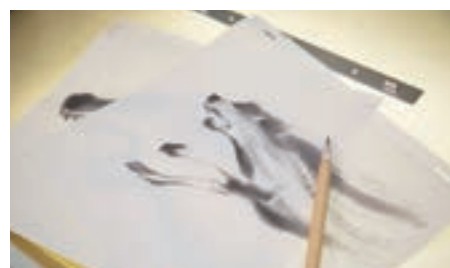
当初は画用紙で、やがて和紙を使うようになると、墨による表現の奥深さ、その魅力にどんどん入り込み、独学でさまざまな技法を試していきました。8ミリフィルムによる自主制作映画が全盛の頃に学生時代を過ごし、私もずっと映像を撮っていました。その延長線上としてアニメーションがあるのですが、卒業したからといって食べていけないはずもなく、昼間は働きながら夜に創作を行っていました。アニメの背景制作の仕事でしたが体力的に続かず……。いろいろな職業を経験しています。

来札以来、4回引越していますが、いずれも南区・藤野エリア。北海道に来るまで経験のなかった山の近くでの暮らし、目線の高さに空が見えるという環境がとても落ち着きます。買い物の途中、作品制作に煮詰まったような時も、景色を眺めているとリラックスできますね。

そんな風景——山の木々などを見ると、いつも何かを描きたくなってきました。四季折々に、色彩や姿が異なるのもいいですね。特に冬、雪が降ると、目に見えるものすべてが墨の世界。その雪にもいろいろな種類があることに気がついて、また新たな発想が生まれ、作品の構想が浮かんだりすることもあります。色がなくなる風景。私は見たことがなかったですし、作品づくりに、暮らす場所としても私にとって、とても居心地がいいところですね。

自然と人と。南区の環境がインスピレーションの源です。

近年は、東京からの仕事のほか、北海道神社庁のCM、北海道のテレビ番組など、道内での仕事も多くなっています。近所には演奏家や彫刻家、カメラマンなど、さまざまな活動をしている方が多く暮らしており、コロナ前には住民の方々も巻き込んだイベントなども行われていました。そこで新たな知り合いができたり、お互いの活動の刺激になったりと、ますます「地元」に根付いてきた感じです。このエリアには限りませんが、将来的には、アニメーションの上映会なども企画してみたいと思っています。たまたま移住してきた南区ですが、いろいろな活動やインスピレーションの源にもなっています。（談）



横須賀 令子 墨絵アニメーション作家

Reiko Yokosuka

茨城県ひたちなか市出身

専門学校在学中より墨絵アニメーションを独学で制作

主に和紙に墨や水彩を用いた手描きアニメーションにより、TV番組、CMなどのアニメを手がける。

<主な仕事>

- 1994年 NHKプチプチアニメ「なんじゃもんじゃおぼけ」
(1996年第6回国際アニメフェス広島大会入選、1996年ワールドアニメーションセレブレーション<ロサンゼルス>入賞)
- 2003年 連句アニメーション「冬の日」参加
- 2005年 「GAKI琵琶法師」(第9回文化庁メディア芸術祭 審査委員推薦作品、2009年Sapporo Short Fest フィルムメーカー部門グランプリ)
- 2011年 サントリーHP「えこそだて」にて「うごくえこよみ」のアニメーション制作
- 2014年 「NHKみんなのうた／きみのほっぺ」

- 2016年 「みんなのうた／おぼけのなみだ」
「天空のお花畑 大雪山～小さな賢者の物語～」
(NHKBSプレミアム)
- 2020・2021年 アニメーションとイラストレーション担当
北海道神社庁CM 墨絵アニメーション制作

<http://reikoyokosuka.blogspot.com>

それでも所属していたアニメサークルで作品を発表し続けるなかで、NHKEテレの子供番組・プチプチアニメから依頼をいただき「なんじゃもんじゃおぼけ」という作品を制作しました。

それから間もなくでした。主人の仕事の関係で札幌に移住することになったんです。当時アニメーションの仕事をするために東京で暮らしていました。色々な人との出会いや刺激がありましたが、生活する環境としては厳しいなと……。そんなふう感じていたなかでの移住話だったので、「行こう、行こう！」と大賛成（笑）。子どもが小学校に上がる時だったので、タイミング的にもいいなと。

仕事のやりとりを考えると、東京は便利です。札幌では同じような仕事ができなくなるかもしれない、という気持ちもありましたが、不思議と深刻ではなくて、「雪が降るなんて、おもしろそうじゃない」と。そんな気楽さもよかったのでしょいか、次のプチプチアニメ「柿の木もつきい」のお話をいただき、今度は札幌で制作しました。当初は電話とファクスを使い、原画を送って撮影してもらっていましたが、今はパソコンとスクヤナを使って自分で制作ができるようになって。ますます距離は感じなくなっていますね。



手芸

すぎたまり

展示、販売、公開はしておりませんが、日にちが合えば個人レッスンは可能です。

- HP: ameblo.jp/kokoro-sapporo
- メール: tenten_ma3dori@i.softbank.jp
- facebook: 羊毛フェルト工房 こころもこ
- Instagram: mari.sugita



陶芸、造形、音楽

坂田 眞理子

(さかた まりこ)

アトリエ吉兆窯
gallery麒麟の森

ギャラリーでの作品見学、購入は可能。
作品展示は不定期の為、事前連絡をお願いします。

札幌市南区真駒内柏丘4丁目 2-26
Tel.090-5988-8696
●メール: marisan219@au.com
●Instagram: marisan0219



金工

鴨下 玄

(かもした げん)

STUDIO kamokamo

アトリエに併設するギャラリーカモカモにて作品
展示中は購入可能です。

札幌市南区真駒内幸町1-1-15
Tel.011-584-0025
●HP: studiokamokamo.wixsite.com/home
●メール: studiokamokamo@gmail.com



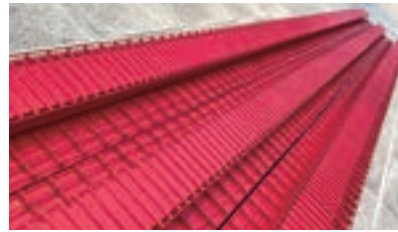
音楽

岩崎 弘昌

(いわさき ひろまさ)

オーボエ奏者
アンサンブルグループ奏楽(そら)

札幌市中央区南14条西5丁目1-3-201
Tel.070-5611-9464
●HP: sora-music-hokkaido.com
●メール: sora-i-2008@mail.goo.ne.jp
●facebook: nposora2008



美術

伊賀 信

(いが まこと)

G.A.A.L

アトリエにギャラリー有り、アトリエ見学可能です。
作品購入可能です。

札幌市南区真駒内柏丘5丁目6-37 2階
シェアアトリエUI内
●HP: gaal.jimdosite.com
●メール: gaaligmkt@yahoo.co.jp
●facebook: makoto.iga.9
●Instagram: makotoiga



美術、工芸、デザイン

青池 茉由子

(あおいけ まゆこ)

デザインアトリエ BLUEPOND

アトリエで作品購入可能です。(ご連絡くださった
方にご住所ご案内しております)季節に一度程
度、不定期でオープンアトリエを開いています。

●HP: bluepond-jp.tumblr.com
●メール: bluepond.info@gmail.com
●facebook: bluepondjp
●Instagram: bluepond_jp



音楽

高垣 美加

(たかがき みか)

ピアノ奏者
高垣美加ピアノ教室

札幌市南区真駒内緑町3-2-6-403
Tel.011-584-5933
●HP: takagakipiano.com
●メール: mikapf915@gmail.com
●facebook: 高垣美加ピアノ教室
●Instagram: 高垣美加



造園美術家

小助川 裕康

(こすけがわ ひろやす)

●HP: hiroyasukosukegawa.jp



金工

鴨下 蓉子

(かもした ようこ)

STUDIO kamokamo

アトリエに併設するギャラリーカモカモにて作品
展示中は購入可能です。

札幌市南区真駒内幸町1-1-15
Tel.011-584-0025
●HP: studiokamokamo.wixsite.com/home
●メール: studiokamokamo@gmail.com



工芸

岩本 裕規・由希

(いわもと ひろのり・ゆき)

金属工房ニコクラフト

2022年夏頃ギャラリーオープン予定
アトリエ:金属工房ニコクラフト

札幌市南区石山東6丁目13-1
Tel.011-557-3516
●HP: nico-craft.com
●メール: 25@nico-craft.com
●facebook: hironori.iwamoto.35

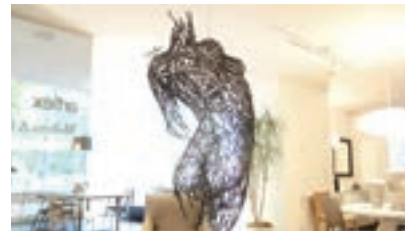


彫刻

伊藤 明彦

(いとう あきひこ)

●メール: a.itoh.jp@gmail.com



美術、彫刻

浅井 憲一

(あさい けんいち)

AZプロジェクト 鉄工房

アトリエに展示室、展示場など有ります。
電話連絡の上、見学でき、作品購入可能です。

札幌市南区石山1039-5 Tel.090-2696-4994
●HP: az-tetu.com
●facebook: morinokobo
●Instagram: sachiko.asai
●Twitter: azp2



ダンス

千田 雅子

(ちだ まさこ)

札幌舞踊会バレエスタジオ

札幌市南区真駒内柏丘8丁目3-17
Tel.011-582-8284
●HP: sapporo-buyoukai.com
●メール: buyoukai@violin.ocn.ne.jp
●facebook: SAPPOROBUYOUKAI/
●Instagram: sapporo_buyoukai_official



音楽

櫻井 匡

(さくらい ただし)

トランペット奏者
札幌管楽ソリステン代表

札幌市南区澄川四条四丁目10-5
Tel.090-1425-4083
●HP: sapporosoli.wixsite.com/home
●メール: trumpet.sakurai.1016@gmail.com
●facebook: 櫻井 匡
●Instagram: tadashi.sakurai



陶芸

川口 英高

(かわぐち ひでたか)

宙工房

ギャラリーで作品展示、購入可能です。

札幌市南区小金湯575-17
Tel.011-596-5439
●メール: kawaguchi@sorakoubou.jp



工芸

神尾 優佳

(かみお ゆか)

Su Haku(スウハク)

工房で作品購入可能です。
※普段はクローズしているので、見学や作品購
入の場合は事前にご連絡をお願いいたします。

札幌市南区常盤1条2丁目6-21
●メール: suhaku.pottery@gmail.com
●Instagram: kamio_yuka



彫刻

伊藤 幸子

(いとう さちこ)

・道展(北海道美術協会展)彫刻部門会員
・札幌市南区文化団体協議会会員

●メール: sachiko_pom@yahoo.co.jp



書道

阿部 和加子

(あべ わかこ)

書道 わか葉会

書道に係る作品は概ね販売いたします。
ご希望に沿って制作時間を戴き表装の上、販売
いたします。既成の作品は購入可能です。

札幌市南区真駒内緑町1-3-10
Tel.011-582-1035・011-582-2232(木曜日のみ)
●メール: wakakowakaba@yahoo.co.jp



空間インスタレーション、環境芸術

山田 良（やまだ りょう）

- HP: ryoyamada.com
- メール: r.yamada@scu.ac.jp
- facebook: ryo.yamada.313924



木工（寄木彫刻）

三島 俊樹（みしま としき）

有限会社 三島木工

北海道美術作家協会会員、道美展に毎年出展

- HP: mishima-mokko.jp
- メール: mishima@mishima-mokko.jp



美術、写真、工芸

八戸 耀生（はちのへ あきお）

ネイチャーサイエンス オーパス

- 札幌市南区中ノ沢1812-1212
Tel.090-2054-2746
- HP: pshop.co.jp
- メール: akio.hachinohe@gmail.com
- facebook: akio.hachinohe



美術

西田 陽二（にしだ ようじ）

- メール: yusaida.nishida.youji@hotmail.co.jp
- facebook: yusaida.nishida.youji
- Instagram: nishidayouji



工芸

陶房天藍（とうぼうてんらん）

- HP: ten-ran.com
- メール: lapazgoma@hotmail.com
- facebook: michiko.komatsu.7524
- Instagram: michilapaz



軟石アクセサリー

Liaison（リエゾン）

- HP: liaison-hokkaido.jp
- メール: info-info@liaison-hokkaido.jp
- facebook: liaison.sss
- Instagram: liaison_sss
- Twitter: liaison_sss



切り絵、イラスト

三苫 麻由子（みとま まゆこ）

- メール: m.mitoma3@gmail.com
- Instagram: myk.mtm



メディア芸術

藤木 淳（ふじき じゅん）

- HP: fujimori.website/junfujiki
- メール: fujikijun@gmail.com



工芸

HACOYA（ハコヤ）

- メール: hacoya.hokkaido@gmail.com
- Instagram: paper_hacoya



音楽

NAOMI（ナオミ）

歌手（ジャズ、シャンソン、ミュージカル）
アトリエ・ブルーバード

- HP: naomi-sings.com
- メール: betty.sings2014@gmail.com
- Instagram: naomi.sings703
- facebook: betty7030
- Twitter: betty7030naomi
- YouTube: NAOMI Sings



美術

八子 直子（やこ なおこ）

札幌中心に個展、グループ展企画展で活動
作品は展覧会場にて購入可能です。もしくは
ご連絡をお願いいたします。

- メール: ayumana@icloud.com
- facebook: やこなおこ
- Instagram: naoko.yako



写真

藤倉 翼（ふじくら つばき）

- HP: tsubasafujikura.com
- メール: tsubasa@airbags.jp
- facebook: tsubasa.fujikura
- Instagram: tsubasafujikura



音楽、美術、ダンス、映像

長谷川 史織（はせがわ しおり）

バルーンギフト、バルーンスタンドなど
バルーンを購入可能です。

- HP: birth-farm.jimdofree.com
- メール: bm9.apple7@gmail.com
- Instagram: shiori.birthfarm



美術、工芸

中村 裕（なかむら ひろし）

草の窯

アトリエにギャラリーが有り、購入可能です。
※見学の時はご一報、お願いいたします。

- 札幌市南区真駒内169-7
Tel.011-581-5367
- HP: kusanogama.com
- メール: koma-oka.n@violet.plala.or.jp
- facebook: Hiroshi Nakamura
- Instagram: nakamura_hiroshi_sapporo

「南区=アートのまち」プロジェクトとは

雄大な自然に恵まれた南区には札幌芸術の森や石山緑地など多くの芸術・文化施設があります。またデザイン系学部を擁する二つの大学があり、学生たちが未来のアーティストを目指して学んでいます。そのような環境に恵まれた美しい南区は「芸術区」としてふさわしい区といえます。そこでは多くのアーティストが住居やアトリエを構え創作活動をしています。様々なジャンルのアーティストの活動が人々の心を豊かにしてくれます。そしてアートには人と人とを結びつける不思議な力があります。「南区=アートのまち」プロジェクトは、アートを通じた心豊かで魅力あるまちづくりに取り組むため、2020年から活動しております。

この度「南区=アートのまち」プロジェクトの実行委員から南区在住アーティストの推薦を募り、皆様にご紹介させて頂く運びとなりました。このファイルが南区のアートシーンの今を知る為の一助となれば幸いです。残念ながら今回ご紹介できなかった多くの創作活動をされている方が南区にはいます。そしてこれからも南区に移住し、創作活動拠点をもたれる方もいることと思います。今回作成いたしましたアーティストファイルが次へのステップとして更に発展していくことを切に願っています。

実行委員長 國松 明日香

実行委員長



國松 明日香

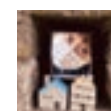
彫刻家・星槎道都大学客員教授

札幌駅前通りや札幌ドームなど、札幌市内の公共施設に多くの作品が展示されている。北海道を代表する彫刻家

主な受賞経歴

1973年 第1回C.C.A.C. ワールドプリントコンペティションにて
最優秀賞受賞(サンフランシスコ)
1987年 イメージ・響ー北海道の美術'87にてグランプリ受賞(北海道立近代美術館)
1989年 はまなす国体シンボルモニュメント「捷」にて第4回本郷新賞受賞
1993年 札幌市民文化奨励賞受賞
2003年 あいの里教育大駅前の彫刻「MUSE」にて「日本の鉄道ーパブリックアート大賞」
優秀賞受賞
2008年 北海道文化奨励賞受賞
2009年 紺綬褒章受章
2016年 札幌芸術賞受賞

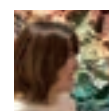
実行委員（五十音順）



小原 恵

札幌軟石を扱う「軟石や」代表

札幌軟石でアロマストーンなどの雑貨を制作



坂本 真惟

札幌芸術の森美術館
学芸員



芝木 謙子

(公財)バシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会



須之内 元洋

札幌市立大学 デザイン学部講師

生活を豊かにするメディア・アートについて、研究・デザイン・プロジェクトを実践している。



早川 渉

東海大学札幌キャンパス
国際文化学部講師・映像制作者

1999年カンヌ映画祭に正式出品。
各国の国際映画祭で受賞歴があり、国内外の高い評価を得ている。



吉村 卓也

株式会社メディアグレス代表、
ぼすとかん再生プロジェクト代表

編集者、フォトグラファー、ビデオグラファー、ライター、ドキュメンタリー映像作品も制作。南区を舞台にいろいろな地域活動を行う。

副委員長 大平 英人

札幌市南区長

実行委員 川本 明

札幌市南区市民部長

発行元：「南区=アートのまち」プロジェクト実行委員会

発行：2022年3月

表紙写真：五輪大橋にある本郷新『花束』（部分）（撮影：吉村卓也）